

# ワケ カタチには理由がある(Q)

## ～カナディア・セイバー(Canadair Sabre)戦闘機



(自動スラット→)

[出典:F-40 シリーズ  
「Canadair Sabre」]



(↑ハルトマンの乗機 Bf-109G とともに)

本機は、カナダのカナディア社でノースアメリカン F-86E をライセンス生産した機体です。本家の F-86 は 1950 年から始まった朝鮮戦争で活躍します。戦後誕生した西ドイツ空軍には、英国空軍を介して納品されています。当時、西ドイツは敗戦から日が経っていませんでしたが、米国は、東ドイツや東欧諸国と対峙していた西ドイツに、それなりの最先端戦闘機を装備してもらう必要があったのでしょう。大戦中のエースのアーリッヒ・ハルトマンが戦後西ドイツ空軍に復帰して第 71 戦闘航空団「リヒトフォーヘン」の司令官の任に着いた際に、同部隊は、ハルトマン乗機のトレードマーク、「ブラックチャーリップ」を機首に塗装しました。また、両機とも、主翼前縁に「ネズ爺&ハテナンの特許探偵団 vol.38」で取り上げた、英国ハンドレページ社の自動スラットを装備しており、この点でも共通点がありました。

### 【模型について】

韓国のアカデミー(Academy)製 1/72 の F-86E のインジェクションキットです(F型もリリースされていますが、翼延長+スラット廃止なのでカナディア・セイバーと異なります)。デカルはホビーボスのキットから流用しました。なお、この機体番号は迷彩塗装のもので、シルバー地の機体番号ではないため、架空のものとなってしまいました。

(中川裕幸 2021年3月)